

まち
づくり ²

「ベビーカーでゆかっしんぐ」 良い公園にするために利用者の 声を届けたい

茨城・水戸市

特定非営利活動法人

子育て応援・ペンギンくらぶ

水戸公園事務所





今回「ベビーカーでウオッチング」の舞台となった国営ひたち海浜公園では、授乳室を来年三月に造る計画があり、男性担当者だけの意見で造っているのかという自問から、ベギンくらぶに協力要請し利用者の立場から意見を聞き、あわせて「ベビーカーでウオッチング」も実施することになった。

ベビーカーでウオッチングとは、実際に子どもを乗せてベビーカーを押しながらバリアを点検していく活動。ベギンくらぶではこれまでに二回、水戸市内の百貨店で実施しており、水戸市在住の公園担当者、調査設計課長の脇坂隆一さんもベギンくらぶの活動実績をよく知っていたことから今回実現した。

代表の柳橋剛さんはこう言う。「住民の声を届けたい。子ども連れが多く来る施設だが、「ここを改善してほしい」「こういうものを造ってほしい」と思っているけど、普通はなかなか言えない。だからこそこうして利用者の意見を施設側に伝えたい」。

海浜公園は、地元住民の他多くの観光客で賑わう大規模公園。地元の人の視点から声を届け、利用しやすく、気軽に遊びに行ける公園にしていきたい、と柳橋さんは言う。

ウオッチングでは、まず初めにシーサイドトレインでプレジャーガーデンに移動する。ここでもさっそく問題点を指摘。シーサイドトレインの乗り口が狭くて、ベビーカーを折り畳んで乗車するのめちゃくちゃ手間取るようなのだ。「もう少し広いといいよねえ」こういうところでどんどん改善してほしい事柄を伝えていく。



プレジャーガーデンは大観覧車やジェットコースターなどがあるいわば「遊園地」。到着すると自由に園内の点検が始まる。まずはトイレだ。「子ども用便座があったほうがいいネ」大人は、ベビーカーで連れて行った子どもを外で待たせて用を足すしかないかな」などその場でも要望が出される。

中央レストランでも、やはりまずトイレを点検するメンバーが多い。それからレストラン内の子ども用のイスについても、子どもを座らせて感触を確かめて、手すりが使いやすいか、イスの前面にテーブルをつけたほうがいいのか、などの意見が矢継ぎ早に飛んだ。イスに取り付ける子ども用のテーブルは市販されているそうで、持ち歩くお母さんたちもいるという。やはりそういう点でも子ども連れは不便な点が多いのだろう。

レストラン入口の段差もちょっと気になるところ。「ベビーカーだけでなく車イスでも使いにくいでしょ？」入れることは入れるが、介添えの人が一緒にいる場合には少し不便なようだ。扉の開け方にもベビーカーを使っている人たちならではの要望が出た。開き戸だとベビーカーなどの場合扉を開けたまま出入りするのには実にむずかしい。扉が開いている間に素早く出入りしないといけないのだから。だから、できるなら開き戸よりも引き戸のほうがいいという。職員も「ああ、そうですねえ」と指摘に大きくうなずいた。

どうしてペンギンくらぶに点検をしてもらおうと思ったのか聞いてみた。脇坂さんは「実績からしても



一度呼んでみたかった。県内でも有数の子育て支援グループです」とのこと。

この日のウォッチングの参加者は大人十三人、子ども十人。曇り空の肌寒い日だったので、子ども連れではそうそう長時間野外での活動はできない。風邪を引かせてしまったら元も子もないのだから。しかし、次の点検箇所に移動するといっても、子どもは遊具で遊びたくて泣いてくずる。子ども連れの活動ならではの光景に、「あの気持ち分かるよなあ」とは大人の口からこぼれた言葉。

会議室に戻ってからは、ウォッチングの結果についての意見交換をし、「シーサイドトレインは段差が小さいと子どもも乗りやすい」、「ベビーベッドの位置は子どもと対面できるようにしてほしい」、「障害者用トイレはスペースも広いのでオムツ替えなどにも使えるよう多目的トイレにしては」などの意見や要望が出された。その後授乳室について質疑が交わされた。

「利用者の意見を聞きながら公園を造っていくべき」と脇坂さん。自身も二歳のお子さんを持ち、海浜公園に遊びに来るそうだが、オムツ替えの時に不便さを感じると率直に話す。

この日司会を担当した関内清子さんは最後に、「何が出来上がったから意見を言うのではなく、計画段階から私たちの意見を伝えていかなければいけない」とアピールして意見交換会を終了した。

■連絡先〓子育て応援・ペンギンくらぶ

TEL 〇二九一二五七二五二二